

市町村名	伊平屋村									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1－①		商工観光産業支援事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(12)－ア	
									観光リゾート産業の振興	
担当部課名	総合推進室			事業実施(予定)年度	平成24年～33年度			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)	
事業内容	伊平屋村の観光振興を図るため、伊平屋島観光協会へ支援(観光誘客プロモーション、観光情報発信等)を行う。									
効果発現年度	■当年度 ■後年度(平成30年度)									
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,447	10,211	12,218	10,211	20,058			
		(b) 予算現額	12,101	10,211	12,218	17,058	19,911			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,346	0	0	6,847	▲ 147			
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0			
		A. 計 (b+d)	12,101	10,211	12,218	17,058	19,911			
	B. 執行済額		3,777	8,996	12,218	15,027	17,972			
	うち交付金充当額		3,021	7,196	8,812	12,021	14,377			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率 (％) (B/A)		31.2%	88.0%	100.0%	88.1%	90.3%			
	予算の状況の説明		職員が1名退職したことで、人件費(147千円)が補正減額となった。また、村の実績検査に於いて、商工観光に資することが不適と判断したものは、交付金を充当していないため、1,939千円は交付対象外経費および不用額とした。							
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	・業務研修(旅館業務取得民家42民家)	目 標	(実施)	(2回)	(2回)	(実施)				
		実 績	年12回	3回	1回	実施				
	・人材育成講座開催(10回)	目 標	(実施)	(3回)	(3回)	(10回)				
		実 績	年3回	5回	6回	10回				
	・集客誘致活動(県内40回、県外3回)	目 標	()	(2回)	(2回)	(県内40回 県外3回)				
		実 績		2回	3回	県内27回 県外15回				
	・マリン体験プログラム実施	目 標	()	()	()	(実施)				
		実 績				実施済				
	【参考指標】 ・観光協会職員の雇用(3名)	目 標	(雇用)	(3名)	(3名)	()				
		実 績	1名	3名	3名					
	【参考指標】 ・旅館業取得民家との業務調整	目 標	()	(12回)	(業務調整の実施)	()				
		実 績		15回	業務調整の実施					
	【参考指標】 ・マリンアクティビティ備品の整備	目 標	()	()	(整備完了)	()				
		実 績			整備完了					
	【参考指標】 ・教育旅行誘致業務委託	目 標	()	()	(業務委託の完了)	()				
		実 績			業務委託の完了					
	【参考指標】 ・活動車両整備	目 標	()	()	(整備完了)	()				
		実 績			整備完了					
	達成状況説明		・旅館業取得民家(42軒)に対して、業務研修(食品衛生アレルギー講座1回・体験プログラム開発講座「島の樹木ガイド」1回)を実施した。 ・人材育成講座は、食品衛生アレルギー講座・人名救助講習・植物のガイド講習・受入実施前の事前講習会等を実施、目標回数を達成した。 ・集荷客誘致活動は、目標43回(県内40回、県外3回)に対し、延べ42回(県内27回、県外15回)実施した。 ・マリン体験プログラムについては、滞りなく実施した。							

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	①教育旅行誘致 4校	目 標	(ー)	()	(1校)	(4校)	()	
		実 績			3校	4校		
	②業務研修および人材育成講座による観光客受入体制の改善	目 標	()	()	()	(受入体制の改善)	()	
		実 績				受入体制の改善実施		
	③マリン体験プログラムの実施	目 標	()	()	()	(実施)	()	
		実 績				実施済		
	【参考指標】 旅館業取得民家の増加 21戸 平成29年3月 29戸	目 標	()	(11戸)	(21戸)	()	()	
		実 績		10戸増(全29戸)	6戸増(全35戸)			
	【参考指標】 人材バンク登録者数増加 3人 平成29年3月 7人	目 標	()	(3名)	(3名)	()	()	
		実 績		3名	3名			
	【参考指標】 マリンアクティビティ備品の整備完了	目 標	(ー)	()	(整備完了)	()	()	
		実 績			整備完了			
	【参考指標】 活動車輛整備完了	目 標	(ー)	()	(整備完了)	()	()	
		実 績			整備完了			
【H30成果目標】 民泊利用者数	目 標	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(800人以上)		
進 捗 状 況 説 明	①教育旅行誘致については、本土での継続的な誘致活動が実り、県外高校4校の修学旅行誘致に成功し、目標を達成した。 ②業務研修及び人材育成講座を実施することで、受入側の質の向上につながり、観光客の受入体制が改善された。 ③マリン体験プログラムの実施により、体験プログラムにおける評価について高い評価を頂いた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none">・更なる教育旅行(学校数)の誘致を図る必要がある。・受入側の質の向上を図るため、業務研修及び人材育成講座を実施し、観光客の受入体制の改善を図る必要がある。・観光客のニーズにあったマリン体験プログラムを実施する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・教育旅行学校数を増やすため、本土での積極的なPR活動等を進めていく。・受入体制の改善を図るため、継続した業務研修及び人材育成講座を実施する。・観光客のニーズを把握し、意見を反映させたマリン体験プログラムを増やしていく。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none">・本土での誘致活動については、これまでの経験を活かしたPR方法などを探りながら、積極的な誘致活動を行う。・継続的な業務研修及び人材育成講座を実施するとともに、島内での情報交換を通して、受入体制の改善を進める。・アンケート等で実施してほしいマリン体験プログラムを把握し、プログラムを追加していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)									
<table><tr><td>伊平屋村 17,972千円</td><td>→</td><td>補助金 17,972千円</td><td>→</td><td>伊平屋島観光協会 17,972千円 (対象外経費:4,646千円)</td></tr></table> <div>観光誘客プロモーション:13,845千円 観光情報発信:360千円 体験プログラム実施:3,556千円 人材育成事業費:211千円</div>					伊平屋村 17,972千円	→	補助金 17,972千円	→	伊平屋島観光協会 17,972千円 (対象外経費:4,646千円)
伊平屋村 17,972千円	→	補助金 17,972千円	→	伊平屋島観光協会 17,972千円 (対象外経費:4,646千円)					
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明						
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は「伊平屋島観光協会」で、観光に資する団体であるため、事業内容と一致し適正である。						
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は観光以外に支出していないが、検査時に説明不足となった部分について不要額としたため改善が必要。						
	△	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担は総事業費の10%以上あるが、今後の活動量についても増額予定のため、今後の負担については検討が必要。						
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。						

市町村名	伊平屋村										
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1－②		観光地イメージアップ推進事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(2)－ウ		
	観光客の受入体制の整備										
担当部課名	建設課			事業実施(予定)年度		平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－1－(1)	
事業内容	魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園など観光客が利用する公共施設等の美化、清掃や花木の植栽などを実施する。										
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(平成 年度)										
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)	予算の状況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			(a) 当初予算額		13,084	18,632	18,639	21,885	18,751		
			(b) 予算現額		13,084	13,379	18,602	21,885	18,446		
			(c) 増減額 (b-a)		0	▲ 5,253	▲ 37	0	▲ 305		
			(d) 繰越額		0	0	0	0	0		
	A. 計 (b+d)		13,084	13,379	18,602	21,885	18,446				
	B. 執行済額		13,084	13,273	18,602	20,774	18,213				
	うち交付金充当額		10,467	10,618	14,881	16,619	14,570				
	次年度繰越額		0	0	0	0	0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.2%	100.0%	94.9%	98.7%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容は実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。また、減額補正を実施した。									
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況							
					26年度	27年度	28年度	29年度			
	環境美化作業員16名			目 標	(16名)	(16名)	(16名)	(16名)			
				実 績	16名	22名	23名	23名			
				目 標	()	()	()	()			
				実 績							
達成状況説明	環境美化作業員については、23名を雇用することができ、目標値を達成した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)		
	観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業 18ヵ所			目 標	()	(29.5Km 5箇所)	(51.6Km 18ヵ所)	(29.5Km 18ヵ所)	()		
				実 績		29.5Km 5箇所	51.6Km 18ヵ所	51.6Km 18ヵ所			
	【H30成果目標】 観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。			目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(80%以上)		
	進捗状況説明	観光アクセス道路の美化清掃(目標:29.5km)及び観光関連施設の美化作業(目標:18ヵ所)については、それぞれ51.6km、18ヵ所で実施することができ、目標を達成した。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・雑草の繁茂は1年を通してあり範囲も広いため、観光アクセス道路及び観光関連施設の美化を保つためには、効率よく作業を行う必要がある。	・効率よく作業が行えるように、年間を通した作業計画を立てる必要がある。
今後の取り組み方針		
・策定した作業計画をもとにして、効率的な美化作業を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
18,213	18,213	14,570	3,643	0

伊平屋村
18,213千円

賃金
16,281千円

需用費
1,684千円

手数料
1千円

使用料及び賃借料
115千円

備品購入費
132千円

清掃作業員賃金
16,281千円

消耗・燃料・修繕費
1,684千円

荷積み料
1千円

機械借上料
115千円

備品購入費
132千円

清掃作業員にかかる賃金

清掃作業の際に使う
燃料・消耗品購入・修繕費用

作業に使う道具等を載せた
フェリーの荷積み料

清掃作業の際油圧ショベル
及び2tダンプ等の使用料

作業に使う道具等の
購入費用

資金 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、事業に必要な経費を支出しているため妥当である。 ○備品購入については、見積比較を行い選定を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③	誘客イベント推進事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ア				
				観光リゾート産業の振興				
担当部課名	総合推進室	事業実施 (予定)年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(1)			
事業内容	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用したイベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、入域観光客数の増加を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	21,240	23,108	29,694	31,702	35,222	
		(b) 予算現額	23,192	15,330	31,973	31,717	35,222	
		(c) 増減額 (b-a)	1,952	▲ 7,778	2,279	15	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	23,192	15,330	31,973	31,717	35,222	
	B. 執行済額		23,192	15,330	31,973	31,717	33,135	
	うち交付金充当額		18,553	12,264	25,578	25,373	26,507	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.1%	
予算の状況の説明		村の実績検査に於いて、イベント開催委託及びイベント開催支援の実績額に対し、不適と判断したものは、交付金を充当していないため、2,087千円は交付対象外経費および不用額によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	・イベント開催委託 9件	目 標	()	(10件)	(10件)	(9件)		
		実 績		10件	9件	9件		
	・イベント開催支援 4件	目 標	()	(3件)	(3件)	(4件)		
		実 績		3件	4件	4件		
	・観光コーディネーター 1名	目 標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)		
		実 績	1名	1名	1名	1名		
	達成 状況 説明	・イベント開催委託や活動支援活動目標はイベント関連総数の変動なく、通年を通じて実施した。 ・伊平屋村のメインイベントである「いへやまつり・伊平屋ムーンライトマラソン」や、自然資源を活用したイベント並びに島外において「伊平屋村」をPRするためのイベントを開催した。 ・観光コーディネーターを1名配置し、通年通じて雇用了。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (27年度)	27年度	28年度	29年度
「対象イベント等誘客数 8,296名」 (平成27年度8,026名※入域観光客数2, 4, 5, 7, 10月入域観光客数より算出)		目 標	(8,026)	(7,589)	(7,589)	(8,296)	(21,000人)	
		実 績		8,026	8,687	9,561		
キャンプツアーを含む誘客受入体制の構築		目 標	()	()	(キャンプツアーを含む誘客受入体制構築)	(キャンプツアーを含む誘客受入体制構築)	()	
		実 績			誘客受入体制構築の実施	誘客受入体制構築の実施		
【H30成果目標】 村内入域観光客数		目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(22,861人以上)	
進捗 状況 説明		「対象イベント等誘客数」について、前年度比10%増(8,296人)を目標に掲げた結果、実績値9,561人となり目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・更なる観光誘客を図る必要がある。	・観光誘客を図るため、観光客のニーズの把握・分析を行うとともに早めの情報発信を行う。
今後の取り組み方針		
・観光客のニーズの把握・分析を行うため、観光客へのアンケートを実施する。また、イベント情報等についてはHP等で早めに発信していく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）				
<div><div><div>伊平屋村 33,135千円</div><div><div>賃金 2,508千円</div><div>委託料 11,351千円</div><div>負担金・補助金 及び交付金 19,276千円</div></div><div><div>コーディネーター(1名) 2,508千円</div><div>特定非営利活動法人 げんき村 259千円</div><div>伊平屋村商工会青年部 945千円</div><div>伊平屋村漁業協同組合 304千円</div><div>笹尾商工株式会社 3,927千円</div><div>一般社団法人 TAO Factory 4,956千円</div><div>我喜屋区 490千円</div><div>沖縄県羽地進行協同組合 470千円</div><div>伊平屋かかしまつり実行委員会</div><div>いへやまつり実行委員会 3,698千円（交付対象外経費2,156千円）</div><div>伊平屋ムーンライトマラソン実行委員会 13,996千円（交付対象外経費14,812千円）</div><div>三村交流事業実行委員会 1,232千円（交付対象外経費3,192千円）</div></div><div><div>誘客イベント(人看板設置)</div><div>誘客イベント (ウェルカムイベント・ スポーツ大会)2件</div><div>誘客イベント(釣り大会)</div><div>誘客イベント(キャンプツアー・ ヴィレッジトレイル)</div><div>誘客イベント(村内外情報発信)</div><div>誘客イベント(イルミネーション)</div><div>誘客イベント(村内外情報発信)</div><div>第6回かかし祭り 975千円</div><div>第29回いへやまつり 5,854千円</div><div>第23回 ムーンライトマラソン 28,808千円</div><div>第5回 いいな運天港 いちやり場まつり 4,424千円</div></div></div></div>				
資金の 使途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業については、本村の地域性を十分考慮し積極的な事業を行っている村内団体、また村内外の業者とも情報交換を積極的に行え村内情報のPRIについて高い効果を発揮できる団体を選定したため妥当である。補助金については、村の発展に寄与する団体で構成される組織を選定したため妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査、妥当と判断する。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算段階で検査を実施、目的に即し必要なものであったと判断したため、限定していると判断した。	

市町村名		伊平屋村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		1－④		海浜公園植栽及び緑化体制整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ		
担当部課名		建設課		事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容		観光地として魅力的な景観形成を図るため、公園内の植栽をおこなうとともに、村民参画による島内緑化推進体制の整備を行う。							
効果発現年度		□当年度 ■後年度(33年度)							
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)				26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	
		予算の状況		(a) 当初予算額	16,500	11,500	0	11,758	13,716
				(b) 予算現額	8,620	11,460	0	11,758	12,981
				(c) 増減額(b-a)	▲ 7,880	▲ 40	0	0	▲ 735
				(d) 繰越額	0	0	6,692	0	0
		A. 計(b+d)		8,620	11,460	6,692	11,758	12,981	
		B. 執行済額		8,532	4,768	6,692	11,700	12,977	
		うち交付金充当額		6,825	3,814	5,353	9,360	10,381	
		次年度繰越額			6,692	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)		99.0%	41.6%	100.0%	99.5%	100.0%	
予算の状況の説明		委託及び工事の入札残による執行残額が発生したが、施工内容においては確保できた。又入札残が発生したので補正にて減額を行った。							
活動目標(指標)及び達成状況		H29活動目標(指標)		達成状況					
					26年度	27年度	28年度	29年度	
		フクギ等植栽 1,700本程度		目 標	(1,697本)	(1,700本)	(1,700本)	(1700本)	
				実 績	1,697本	1,331本	1,441本	706本	
		視察研修、植栽実施研修の実施		目 標	(-)	(視察研修植栽研修の実施)	(視察研修植栽研修の実施)	(視察研修植栽研修の実施)	
				実 績	-	島外視察研修植栽実施研修の実施	島内生産者の圃場視察植栽実施研修を実施	島内生産者の圃場視察植栽実施研修を実施	
達成状況説明		幼木を主体とした植栽は人為的な管理をせずに自然に生育することを基本とするが、冬の季節風や台風、高潮、潮風などの厳しい環境条件にさらされている当公園は、植栽樹木の活着と良好な樹木成長、さらに樹林の成長管理を行っていくことを活動目標に研修を実施した。 計画に沿った緑陰機能の回復とあわせ海浜景観の復元ができ、海浜公園の緑陰機能回復に寄与した。 また、平成25年度から平成28年度まで植栽してきた各植栽区の樹木生育状況を把握し、課題を整理した。							
成果目標(指標)及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
		①植栽木の成長により、緑陰機能の回復が図られ、利便性、快適性の向上		目 標	(1,610㎡)	(355㎡)	(利便性の向上)	(1,610㎡)	()
				実 績		355㎡	利便性の向上	1,610㎡	
		②村民参画による緑化推進体制の整備		目 標	()	(村民参画による緑化推進体制整備)	(村民参画による緑化推進体制整備)	(村民参画による緑化推進体制整備)	()
				実 績		視察研修植栽研修の実施	島内生産者の圃場視察植栽実施研修を実施	村民参画による緑化推進体制により講習会実施	
		【H33成果目標】 観光客へのアンケートにより、観光地としてふさわしい景観であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。		目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(80%以上)
進捗状況説明		①植栽木の成長に起因する緑陰機能回復のため、植栽を実施。目標範囲1,610㎡の植栽を行うことができ目標を達成した。 ②村民参画による緑化推進体制の整備のため、講習会(樹木移植実習(1回))を実施した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・周囲の植栽は完了し、成長後には防風や緑陰機能の強化に大きく寄与するが、活着までに時間を要することから、適切な管理を継続的に実施する必要がある。	・立ち枯れや潮風による飛散を防ぐため防風ネットの設置や周囲の除草及び追肥など成長面での管理について、関係団体と連携を取りながら進める。
今後の取り組み方針		
・植栽した木々の活着のため、防風ネットの設置や周囲環境（除草・追肥）の整備等、連携を取り適切な育成管理を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>12,977</td><td>12,977</td><td>10,381</td><td>2,596</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,977	12,977	10,381	2,596	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,977	12,977	10,381	2,596	0										
<div><div>伊平屋村 12,977千円</div><div>→</div><div>委託料 4,005千円</div><div>→</div><div>(有)MUI計画 4,005千円</div><div>→</div><div>工事請負費 8,972千円</div><div>→</div><div>(株)伊葉開発 8,972千円</div></div> <div><div>海浜公園植栽工事（植栽）にかかる現場技術委託業務に係る経費</div><div>緑化活動支援に係る講習、実習に係る経費</div><div>海浜公園植栽整備（植栽）にかかる整備工事に係る経費</div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託、請負ともに指名競争入札により発注を行った。 ○予算規模については、見積により最低価格を設計額とし入札を行った。工事では委託業務による工事単価の見直しを行い、積算物価資料等を活用し積算したことから適正であったと考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2－①		病害虫防除事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ウ			
								農林水産物の安全・安心の確立			
担当部課名	農林水産課			事業実施 （予定）年度	平成24～30年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－1－(6)		
事業内容	さとうきびの生産性の向上を図るため、収穫量低下の原因となっている病害虫（イネヨトウ）の防除作業を実施する。										
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度（ 年度）										
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（ ）										
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			(a) 当初予算額		10,750	8,160	7,860	7,694	7,693		
			(b) 予算現額		10,164	8,100	7,860	7,693	7,002		
			(c) 増減額 (b-a)		▲ 586	▲ 60	0	▲ 1	▲ 691		
			(d) 繰越額		0	0	0	0	0		
			A. 計 (b+d)		10,164	8,100	7,860	7,693	7,002		
			B. 執行済額		10,164	8,100	7,860	7,693	7,002		
			うち交付金充当額		8,131	6,480	6,288	6,154	5,601		
			次年度繰越額		0	0	0	0	0		
			執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
		予算の状況の説明		見積価格の減により補正にて691千円の減額を行った。							
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）				達成状況						
						26年度	27年度	28年度	29年度		
	防虫剤（フェロモン剤）散布：160ha				目 標	（ 150ha ）	（ 160ha ）	（ 160ha ）	（ 160ha ）		
					実 績	150ha	160ha	160ha	160ha		
					目 標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）		
					実 績						
	達成 状況 説明	伊平屋村さとうきび生産対象面積である160haに対し、フェロモンチューブ設置面積（目標）の同面積（実績）の実施を行なったため、活動目標は概ね達成できた。									
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）					基準値 （23年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （年度）	
	病害虫防除等による サトウキビ生産量の安定化 H23年度 1,758t→H29年度 4,900t				目 標	（ 1,758t ）	（ 4,000t ）	（ 4,900t ）	（ 4,900t ）	（ ）	
					実 績		4,361t	6,003t	5,366t		
	進 捗 状 況 説 明	病害虫（イネヨトウ）の被害を最小限に抑えることができ、サトウキビの生産量は実績：5,366tとなり、目標（4,900t）を達成した。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・病害虫（イネヨトウ）の被害を最小限に抑えるため、効果的な対策（フェロモンチューブの設置場所を工夫する等）を講じる必要がある。	・効果的な防除を行なうため、関係団体・生産農家への正しい防除方法や病害虫の生息しづらい環境づくりの指導を行い、島全体で防除作業を実施する必要がある。加えて、さとうきび生産安定化を図るため、JA及び生産農家、関係機関へ薬剤施用・適宜肥培管理等の指導・啓蒙の推進を図る。
今後の取り組み方針		
・関係団体・生産農家への正しい防除方法や病害虫（イネヨトウ）の生息しづらい環境作りの指導を行い、島全体で防除作業を実施する。また、JA及び生産農家・各関係機関と連携し、薬剤施用・適宜肥培管理等の指導・啓蒙を図り、さとうきびの安定的生産を推進する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>7,002</td><td>7,002</td><td>5,601</td><td>1,401</td><td>0</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 7, 002千円</div><div>委託費 7, 002千円</div><div>伊平屋村さとうきび 生産振興対策協議会 7, 002千円</div><div>伊平屋村イネヨトウ交信かく乱委託</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,002	7,002	5,601	1,401	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,002	7,002	5,601	1,401	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、村及びJA、生産農家等で構成されている伊平屋村さとうきび生産振興対策協議会を選定した。 ○予算規模については、事業内容に見合うものとする。 ○受益者負担については、防除剤設置作業を生産農家等の協力により実施しているため、負担を無しとしている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	2－②		伊平屋村優良繁殖牛導入事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(7)－ア		
担当部課名	農林水産課			事業実施 (予定)年度		平成26～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－1－(6)	
事業内容	農家の経営安定化を図るため、畜産農家が行う繁殖牛導入費用の一部(上限を40万として、購入費用の半額を補助)を助成する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
			(a) 当初予算額		7,500	6,000	5,600	5,600			
			(b) 予算現額		5,250	6,000	5,590	5,600			
			(c) 増減額(b-a)		▲ 2,250	0	▲ 10	0			
			(d) 繰越額		0	0	0	0			
			A. 計(b+d)		5,250	6,000	5,590	5,600			
			B. 執行済額		5,250	5,800	5,590	5,535			
			うち交付金充当額		4,200	4,640	4,472	4,428			
			次年度繰越額		0	0	0	0			
			執行率(%) (B/A)		100.0%	96.7%	100.0%	98.8%			
		予算の状況の説明		前年度実績及び現状を踏まえ、村内畜産農家14名に対し、優良繁殖雌牛導入補助金の助成上限額を一頭当たり40万として計画し、事業計画どおり執行する事が出来た。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
						26年度	27年度	28年度	29年度		
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭				目 標	(15頭)	(15頭)	(14頭)	(14頭)		
					実 績	15頭	15頭	14頭	14頭		
					目 標	()	()	()	()		
					実 績						
	達成 状況 説明	当初の計画通り、優良繁殖雌牛14頭を導入することが出来た。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (29年度)	
	14頭 全体計画の80.6%完了				目 標	()	(184頭)	(194頭)	(204頭)	(14頭 全体計画の 80.6%完了)	
					実 績		184頭	196頭	205頭	14頭 全体計画の 80.6%完了	
	【H30成果目標】 導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 106%以上				目 標	()	()	()	()	(106%以上)	
	進 捗 状 況 説明	計画通り、優良繁殖雌牛14頭を導入し全体計画の80.6%を完了する事が出来た。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県内外において、繁殖用雌牛のセリ値は依然として高い傾向にあり、加えて本村は、離島のため更にコスト負担がかかっている。	・コスト軽減のために、関係団体と連携を取り、共同で購入・搬入する等計画的な導入支援を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・購入・搬入等については、関係団体と連携を図り、少しでもコストが抑えられるような計画を立てる。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>5,535</td><td>5,535</td><td>4,428</td><td>1,107</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,535	5,535	4,428	1,107	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,535	5,535	4,428	1,107	0										
<div><div>伊平屋村 5, 535千円</div><div>→</div><div>補助金 5, 535千円</div><div>→</div><div>畜産農家 5, 535千円</div><div>（ 畜産業を営む14農家に対する優良繁殖雌牛導入補助金。 5,535,480円 ）</div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、村内の畜産農家全員を対象としており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、前年の実績値を元に積算しており適正である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者への補助は、事業に係る費用の半額且つ上限額を定めており妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、事業目的である繁殖牛導入に係る費用の補助のみとなり適正である。											

市町村名	伊平屋村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－①		伝統文化継承支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－ア		
担当部課名	教育委員会		事業実施(予定)年度	平成24～33年度		地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成		
				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)			
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,687	5,090	4,190	6,022	14,462	
		(b) 予算現額	16,360	4,414	4,870	4,685	14,983	
		(c) 増減額(b-a)	8,673	▲ 676	680	▲ 1,337	521	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	16,360	4,414	4,870	4,685	14,983	
	B. 執行済額		15,859	4,414	4,870	4,684	13,944	
	うち交付金充当額		12,687	3,531	3,896	3,747	11,155	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		96.9%	100.0%	100.0%	100.0%	93.1%	
予算の状況の説明		芸能保存活動支援において、当初の執行計画を見直したことにより、想定を上回る需要が見込まれたため負担金を521千円を増額補正した。しかしながら、実施過程において各集落への支援補助金の内容を精査した結果、1,039千円の不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	伝統文化教室の開催:18教室／11回	目 標	(11講座(11回))	(11講座(11回))	(14講座(11回))	(18講座(11回))		
		実 績	13講座(11回)	16講座(11回)	17講座(11回)	18講座(11回)		
	島内芸能保存団体補助:8団体	目 標	()	(8団体)	(8団体)	(8団体)		
		実 績		4団体	6団体	6団体		
達成状況説明	伝統文化学習講座について、児童生徒の希望により予定より多くの講座の開設と年間計画に基づき計画通り講座の運営を行った。 村芸能保存会において、計画通りの実施が行われ、地域住民・5集落における伝統芸能継承を自発的に地域をあげて実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	①伝統文化教室の参加者数:100名 (伝統芸能保存会活動及び後継者育成)	目 標	()	(100名)	(100名)	(100名)	()	
		実 績		167名	154名	100名		
	②地謡(三線)継承者の育成 5名 (第2回いへや芸能まつりの開催)	目 標	()	(5名)	(5名)	(5名)	()	
		実 績		5名	5名	7名		
	【H30成果目標】 ・伝統文化教室への参加者数 133人 ・伝統芸能演舞者数 25名 ・来場者数 323名	目 標	()	()	()	()	()	
	進捗状況説明	①伝統文化教室の参加者数については、継続的な伝統文化活動の日の実施により、昨年度より講座の開設数が目標を上回ったほか、参加人数も100名となり、目標を達成した。 ②地謡(三線)継承者の育成については、7名の育成が行われ、目標を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<div>・多様化する講座の種類や、ニーズの高い講座への講師の割り当てや人材確保が必要となっている。</div> <div>・継続的・発展的な取り組みとなるよう、地域住民と協働し、イベントの企画・運営を実施するとともに、引き続き三線継承者の育成に努める必要がある。</div>	<div>・多様化する講座の種類やニーズに対応するため、講師陣と密な連携を図りながら、効率的なスケジュール管理を行うとともに、さらなる人材確保に向けて実施内容や取組内容の情報発信を強化する。</div> <div>・地揺(三線)継承者の技術向上に向けた講習会や実践発表会(イベント等)を通じた技術継承を継続的に行う。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・地域人材バンク制度を整理・拡充し伝統文化教室講師の充実強化及び人材確保を行う。</div> <div>・民俗芸能保存会を中心に島内外でのイベント出演機会を確保し、さらなる伝統文化の発展と実践研究を図って行くほか、三線継承者の育成についても地域住民と協働し進めて行く。</div>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>14,115</td><td>13,944</td><td>11,155</td><td>2,789</td><td>171</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 13,944 千円</div><div>報償費 869千円</div><div>伝統文化教室講師 869千円</div><div>〔伝統文化教室にかかる講師報償費(講師18名)〕</div><div>需用費 4千円</div><div>消耗品費 4千円</div><div>〔伝統文化教室にかかる需要費〕</div><div>委託料 519千円</div><div>前泊区 519千円</div><div>〔前泊区伝統文化教室運営委託料〕</div><div>使用料及び賃借料 264千円</div><div>公民館使用料 264千円</div><div>〔伝統文化教室の開催に係る会場使用料(4カ所)〕</div><div>補助金 12,288千円</div><div>芸能保存会・5集落支部 12,288千円</div><div>〔対象外経費:171千〕</div><div>〔伝統芸能保全活動に係る運営補助金 ①芸能保存会:10,670千円(活動補助金) ②田名支部:500千円(活動補助金) ③前泊支部:99千円(活動補助金) ④我喜屋支部:248千円(活動補助金) ⑤島尻支部:320千円(活動補助金) ⑥野甫支部:622千円(活動補助金)〕</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,115	13,944	11,155	2,789	171
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,115	13,944	11,155	2,789	171										
資金の 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先は、推進基盤となる芸能保存会とその各支部に限定しており、妥当であったと考える。										
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		△予算規模は実施時に精査、検証を行った結果、計画時の見込みより1,039千円の不用額が生じた。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○補助金に係る支出は事業執行に必要な最低限な経費とし、それ以外は受益者負担であるため妥当である。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については事業目的に即した経費について支出し適正であったと考える。										

市町村名	伊平屋村									
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3-②		特別支援教育支援員配置事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
								確かな学力を身につける教育の推進		
担当部課名	教育委員会			事業実施(予定)年度	平成25~33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)	
事業内容	個々にあったきめ細かい学習支援を実施するため、特別支援教育支援員を各所へ配置する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,348	5,022	6,696	24,090	24,652			
		(b) 予算現額	1,709	4,482	6,002	24,090	19,769			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,639	▲ 540	▲ 694	0	▲ 4,883			
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0			
		A. 計(b+d)	1,709	4,482	6,002	24,090	19,769			
	B. 執行済額		1,709	4,482	6,002	22,822	19,725			
	うち交付金充当額		1,366	3,397	4,641	18,258	15,779			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	94.7%	99.8%			
予算の状況の説明		・小学校教諭の増員に伴い、当初予定していた人員(小学校特別支援員)が不要となった。人件費2,590千円と学習支援員が対応する生徒数の減少により委託料2,293千円それぞれ減額補正を行った。								
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					27年度	28年度	29年度	30年度		
	【参考指標】 特別支援員の配置1名	目 標	(1名)	(1名)						
		実 績	1名	0名						
	①幼稚園特別支援員の配置1名	目 標	(1名)	(1名)	(1名)					
		実 績	1名	0名	1名					
	②小学校特別支援員の配置1名	目 標	(1名)	(1名)	(1名)					
		実 績	1名	0名	0名					
	③学習支援員の配置3名	目 標	(2名)	(2名)	(3名)					
		実 績	2名	3名	3名					
達成状況説明	①幼稚園特別支援員については、1名が配置され、目標を達成した ②小学校特別支援員については、支援員を配置できず、目標を達成できなかった。 ③学習支援員については、3名が配置され、目標を達成した。									

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29 成果目標(指標)		基準値 (H26)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	①学力テストにおける無回答率の減少	目 標	(10.1%)	(8.0%)	(8.0%)	(8.0%)	()
		実 績		11.7%	6.08%	6.08%	
	②幼稚園教育における個々の学習環境の充実	目 標	()	()	学習環境 の充実	学習環境 の充実	()
		実 績			学習環境 の充実	学習環境 の充実	
	【H30成果目標】 ・対象となる児童の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応に満足したか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
	【H30成果目標】 ・沖縄県学力到達度調査における平均正答率30%未満の割合の減少 正答率30%未満の割合 小学5年生:国語(6.4%以下) 小学3年生:算数(11.6%以下) 中学2年生:国語(12.6%以下) 中学2年生:数学(22.2%以下) 中学2年生:理科(35.6%以下) 中学2年生:社会(21.8%以下) 中学2年生:英語(23.8%以下)	目 標	()	()	()	()	小:-3.2以上 中:-2.7以上
進捗状況説明		①学力テストにおける無回答率の減少については目標を達成できた。 ②幼稚園における個々の学習環境の充実については、専従の支援員を一人配置することにより、保護者との密な情報共有や協力体制の構築、保健師や民生員及びスクールカウンセラー等で組織する教育支援委員会との連携につながり、学習環境の充実が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・支援が必要な児童生徒の実態を把握し、効果的な支援を行う必要がある。 ・幼稚園教育における個々の学習環境の更なる充実を図るため、保護者が求めているニーズを正確に把握する必要がある。	・支援が必要な児童生徒に対応するため、保護者や学校現場との密な連携や外部の専門家との連携により、早期の実態把握に努め、早い段階からの支援を推進する。 ・多様化する特別支援、学習支援の在り方について保護者のニーズを把握するとともに、本事業に対する理解と協力を求め、学校・保護者との連携体制を築いてける方策を検討する。
今後の取り組み方針		
・保護者や外部の専門家と連携を図ることにより、支援が必要と思われる児童生徒の実態把握と個々に応じた支援方策の検討及び、発達段階に応じた系統的な支援カリキュラムを構築する。 ・保護者との密な意見交換を行うことで、ニーズを把握するとともに本事業に対する理解と協力を得ることで協力体制を築き、学習環境の更なる充実を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>19,725</td><td>19,725</td><td>15,779</td><td>3,946</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	19,725	19,725	15,779	3,946	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
19,725	19,725	15,779	3,946	0										
<div><div>伊平屋村 19,725千円</div><div><div>賃金 1, 903千円</div><div>支援員賃金 1, 903千円</div></div><div>〔学習支援員の配置に係る臨時職員賃金:1名〕</div><div><div>委託費 17,822千円</div><div>(社)教育振興会 17,822千円</div></div><div>〔地域学力向上支援事業実施業務委託(派遣):3名〕</div></div>														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○有資格者の支援員を公募により選定したこと、委託費にかかる支出先については、業務実績、実務能力を精査し選定したことから妥当であったと考える。 ○人員減により当初予算より減額となったが、教諭の増員によるものであるため、妥当であったと考えている。 ○受益者である保護者には、夜間の生徒送迎、弁当の配達等を依頼していることから負担関係は適当である。 ○費目や使途についても事業目的に即した人件費及び委託費の支出であることから、妥当であると考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3－③	英語学習支援事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア			
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)		
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、小中学生を対象としたイングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化を体験する機会を与える。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 ■負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,450	2,450	2,402	1,890	1,890
		(b) 予算現額	1,909	1,994	1,974	1,890	1,890
		(c) 増減額(b-a)	▲ 541	▲ 456	▲ 428	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	1,909	1,994	1,974	1,890	1,890
	B. 執行済額		1,402	1,470	1,974	1,456	1,834
	うち交付金充当額		1,121	1,176	1,160	1,165	1,467
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		73.4%	73.7%	100.0%	77.0%	97.0%
予算の状況の説明		当初の計画どおり実行した					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	海外短期留学(アメリカ):3名	目 標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実 績	3名	3名	3名	3名	
	イングリッシュキャンプ:20名	目 標	(40名)	(40名)	(40名)	(20名)	
		実 績	9名	20名	16名	12名	
達成状況説明	海外短期留学について、7月から8月にかけて3名の村内中学生を米国に派遣したほか、8月初旬に伊平屋イングリッシュキャンプと称した英語学習スクールを小中学生16名を対象に3日間の日程で実施した。 活動目標に設定した海外短期留学の目標は達成したが、イングリッシュキャンプは目標に対し、60%の達成状況となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	①英語検定合格者の増加	目 標	()	(30名)	(30名)	(30名)	()
		実 績		30名	14名	19名	
	②留学終了後のムーンライトマラソン等のボランティア協力及び実践発表会開催	目 標	()	(1回 (40名))	(1回 (40名))	(1回 (40名))	()
		実 績		1回 (23名)	1回 (19名)	1回 (30名)	
	③島外英語スピーチコンテストへの派遣3名	目 標	()	(3名)	(3名)	(3名)	()
		実 績		3名	3名	2名	
	【H30成果目標】 参加者及び保護者へのアンケートで、海外での生活・体験や外国人講師との交流を通して、児童生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
進捗状況説明	①英語検定合格者は5級から準2級までの検定に19名が合格したが、目標の30名を下回った。 ②留学終了後のムーンライトマラソン等のボランティア協力及び実践発表会開催については、30名が参加したが、目標の40名を下回った。 ③島外英語スピーチコンテストへの派遣人数については、2名を派遣することができたが、目標の3名を下回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・英語検定合格者については、学校での受検奨励の取組等が合格者数に直結してくる事から、受験者増へ向けての取組を各学校と連携して行う必要がある。</p> <p>・留学終了後のボランティア協力については、中体連とマラソン大会が重なったことで実績減となった。実践発表会については、当初の計画を達成する事が出来ており、今後学校行事等の兼ね合いを含め適切な目標設定を行う必要がある。</p> <p>・島外英語スピーチコンテストへの派遣人数については、中学校での選考により派遣者を決定するため実績減となった。目標を達成出来るよう、引き続き生徒への学習支援を行う必要がある。</p>	<p>・英語検定試験の受験について継続的な奨励を学校と連携して行う。</p> <p>・早期に学校行事や地域行事等のすりあわせを行うほか、年次計画の検討について学校、家庭、地域と連携し事業を推進する。</p> <p>・島外英語スピーチコンテストに向けて、個々の実態に応じた英語指導を学校と連携して取り組む。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・児童生徒の英語学習への関心度を向上させるため、英語スピーチコンテストへの参加推奨や、英会話教室への積極的な参加を促すとともに英語検定合格者数を増やすため、英語検定の受験について学校の担当教諭と密に連携し、生徒の意欲向上を図る。</p> <p>・学校行事や地域行事の年次計画について、ボランティア活動や実践発表会と極力かぶらないよう関係団体やPTA等と調整を行い、ボランティア活動等に参加しやすい環境づくりを目指す。</p> <p>・島外英語スピーチコンテストに向けて、個別指導計画を策定し、英語レベルの向上を図る。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																																				
<table><tr><td rowspan="4">伊平屋村 1,834千円</td><td>報償費 97千円</td><td>講師報償費 97千円</td><td colspan="2">イングリッシュキャンプ開催に係る講師報償費(講師3名)</td></tr><tr><td>旅費 90千円</td><td>費用弁償 90千円</td><td colspan="2">イングリッシュキャンプ開催に係る講師費用弁償(3名)</td></tr><tr><td>使用料及び賃借料 29千円</td><td>(有)風希ネットワーク 29千円</td><td colspan="2">イングリッシュキャンプ開催に係る会場使用料</td></tr><tr><td>負担金・補助金 1,618千円</td><td>(株)タイムサービスセンター、 (株)リウボウ旅行サービス</td><td colspan="2">海外短期留学派遣事業業務協定3名</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>交付対象外経費 負担金・補助金: 181千円</td><td colspan="2"></td></tr></table> <table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,015</td><td>1,834</td><td>1,467</td><td>367</td><td>181</td></tr></table>					伊平屋村 1,834千円	報償費 97千円	講師報償費 97千円	イングリッシュキャンプ開催に係る講師報償費(講師3名)		旅費 90千円	費用弁償 90千円	イングリッシュキャンプ開催に係る講師費用弁償(3名)		使用料及び賃借料 29千円	(有)風希ネットワーク 29千円	イングリッシュキャンプ開催に係る会場使用料		負担金・補助金 1,618千円	(株)タイムサービスセンター、 (株)リウボウ旅行サービス	海外短期留学派遣事業業務協定3名				交付対象外経費 負担金・補助金: 181千円			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,015	1,834	1,467	367	181
伊平屋村 1,834千円	報償費 97千円	講師報償費 97千円	イングリッシュキャンプ開催に係る講師報償費(講師3名)																																	
	旅費 90千円	費用弁償 90千円	イングリッシュキャンプ開催に係る講師費用弁償(3名)																																	
	使用料及び賃借料 29千円	(有)風希ネットワーク 29千円	イングリッシュキャンプ開催に係る会場使用料																																	
	負担金・補助金 1,618千円	(株)タイムサービスセンター、 (株)リウボウ旅行サービス	海外短期留学派遣事業業務協定3名																																	
		交付対象外経費 負担金・補助金: 181千円																																		
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費																																
2,015	1,834	1,467	367	181																																
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明																																	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内では有人キャンプ施設が1カ所しか無く、いへや愛ランドよねざきでのイングリッシュキャンプの実施は妥当であったと考える。また、海外短期留学の委託先は豊富な業務実績と留学前後の事前、事後指導を含めた委託内容から妥当であったと考える。																																	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○受講生は想定していた人員よりも少なくなったものの同事業卒業生が島を訪れイングリッシュキャンプ参加人数に対し、村中学の卒業生が高校での経験、進学後の短期留学について話し合いを持つ等実施期間の確保等に努めると同時に宿泊費など予算のスリム化に努めた																																	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○短期海外留学においては事業費の10%を受益者が負担したことから妥当であったと考える。																																	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的のみに限定したことから妥当であったと考える。																																	

市町村名	伊平屋村							
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3－④		伊平屋島児童・生徒島外派遣等支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア		
	教育委員会		事業実施 (予定)年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	教育機会の拡充		
担当部課名						Ⅲ－3－(1)		
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域での各種体験を通し、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,830	2,564	1,880	1,906		
		(b) 予算現額	3,830	2,799	1,880	1,707		
		(c) 増減額 (b-a)	0	235	0	▲ 199	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	3,830	2,799	1,880	1,707	0	
	B. 執行済額		2,422	2,799	1,534	314		
	うち交付金充当額		1,274	2,028	1,227	251		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		63.2%	100.0%	81.6%	18.4%	#DIV/0!	
予算の状況の説明		当初計画の枠内での運用であるが、平成28年度より参加していた下期の大会に勝ち上がることが出来なかった事、海上気象悪化に伴い、参加できない大会が団体・個人合わせて9大会程度あった。とりわけ団体競技であるバレー、卓球等の派遣費用は平成28年度では1大会最大18万円程度支出がなされていることから本年度は1,393千円の不用額となった。予算の執行については村の派遣要綱に則って適正に派遣を行っている。						
活動目標 （指標） 及び達成状況	H29活動目標（指標）		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（小学生5回・97名）	目 標	（ 3回 ）	（ 5回 110名 ）	（ 5回 110名 ）	（ 5回 97名 ）		
		実 績	11回	18回 243名	11回 150名	5回 97名		
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加（中学生6回・47名）	目 標	（ 6回 ）	（ 6回 62名 ）	（ 6回 51名 ）	（ 6回 47名 ）		
		実 績	20回	34回 306名	16回 110名	6回 47名		
達成状況説明	村内児童生徒対象の事業で、島外へのスポーツ大会や交流学习等への派遣を行った結果、小中共に目標回数、人数を達成することができた。 島内では体験できない学習機会やスポーツ大会への参加を通してのスキル向上ができ、バレーについては小学生クラブが北部地区で決勝常連校となり、優勝5回、中学校バレー部においても北部地区優勝2回、県大会準優勝を果たした。英語スピーチコンテスト等への派遣も英語力向上にも成績向上にもリンクしており、受験生への良い刺激ともなっている。							
成果目標 （指標） 及び進捗状況	H29成果目標（指標）			基準値 （26年度）	27年度	28年度	29年度	目標値 （30年度）
	補助の実施による保護者の経済的負担の軽減	目 標	（ 経済的負担の軽減 ）	（ 経済的負担の軽減 ）	保護者の経済的負担の軽減	保護者の経済的負担の軽減	（ ）	
		実 績	経済的負担の軽減	経済的負担の軽減	経済的負担の軽減	経済的負担の軽減		
	【H30成果目標】 派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が広い視野を持てたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方について検証する。	目 標	（ - ）	（ - ）	（ - ）	（ - ）	（ 80%以上 ）	
進捗状況説明	小中合わせて延べ11回の派遣補助を行うことで、本事業の目標である保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本事業における派遣補助については、スポーツ大会に偏っている傾向があり、文武両道の観点、幅広い視野を養ってもらおうという観点から、派遣事業については、精選する必要がある。	・本事業の継続的な事業効果の向上を図るため、文武両道の観点からスポーツ大会偏重ではなく、文化・学習面での交流や発表会等への派遣も積極的に行うよう指導・助言していく。また、スポーツ関連の派遣補助対象大会も引き続き精選していく。
今後の取り組み方針		
・文化・学習面での交流や発表会等への交流・派遣を推奨する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
333	314	251	63	19

伊平屋村
314千円

負担金補助及交付金
314千円

村内児童生徒
314千円

児童生徒島外派遣等補助金
小学生:5回・延べ人数97人716千円
中学生:6回・延べ人数47人1,190千円

交付対象外経費千円
19千円

資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は児童生徒の所属する団体であったことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○天候不良による不用額はあったものの予算の規模は適正であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船運賃及び宿泊費以外の経費については受益者が負担していることから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。

市町村名	伊平屋村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	3－⑤		学校ICT推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア			
								教育機会の拡充			
担当部課名	教育委員会				事業実施 (予定)年度	平成27～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－3－(1)		
事業内容	小・中学校の教育用パソコン、電子黒板等のICT環境を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに「分かりやすい授業」を実践し「確かな学力」を定着させ、将来を担う人材育成を推進する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況		(a) 当初予算額		17,374	34,995	11,069				
			(b) 予算現額		14,580	30,348	9,699				
			(c) 増減額(b-a)		▲ 2,794	▲ 4,647	▲ 1,370				
			(d) 繰越額		0	0	0				
			A. 計(b+d)		14,580	30,348	9,699				
			B. 執行済額		14,580	30,348	9,698				
			うち交付金充当額		11,664	24,278	7,758				
			次年度繰越額		0	0	0				
			執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%				
			予算の状況の説明		備品購入にあたり、見積書を徴したところ、当初予算額より安価に契約できたことから、減額補正を行った。						
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況					
							28年度	29年度	30年度	31年度	
伊平屋小学校電子黒板等の整備 ①電子黒板:8台				目 標	(17台)	(8台)	()	()			
				実 績	17台	8台					
【参考指標】 ②教育用コンピューター 23台				目 標	(23台)	()	()	()			
				実 績	23台						
【参考指標】 ③学習用ソフトウェア 一式				目 標	(1式)	()	()	()			
				実 績	1式						
達成 状況 説明		平成28年度に電子黒板17台、教育用コンピューター23台、学習用ソフトウェアを整備を行ったが、小学校の中・低学年の教室が未整備であったことから学校全体に電子黒板の整備を行い活動目標を達成した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)					基準値 (27年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (30年度)
	学校ICTの推進による教育環境の充実				目 標	()	()	(教育環境の 充実)	()	()	
					実 績			実施			
	わかりやすい授業の推進				目 標	()	()	(分かりやす い授業の推 進)	()	()	
					実 績			実施			
	【参考指標】 学校ICTを活用した授業の割合 ①小学校25%(H27 10%) ②中学校30%(H27 25%)				目 標	(10% 25%)	(25% 30%)	()	()	()	
					実 績		25% 30%				
	【H30成果目標】 児童・生徒にアンケート調査を実施し、ICT を活用した授業が分かりやすかったと答え た割合(80%以上)を含め、本事業のあり方 を検証する。				目 標	()	()	()	()	(80%以上)	
	進 捗 状 況 説明	電子黒板等のICT機器の整備を行うことで、教育環境の充実と分かりやすい授業の推進に寄与し、成果目標を達成出来た。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ICT機器の整備はできたが、使用については不慣れな面があるため、その使用方法や活用方法については検討の余地がある。	・機器の基本操作を習得するため、操作説明会や指導スキル研修会の実施を検討する。また、ITスキルに長けた教職員をミドルリーダーとし、授業改善と連動したOJTの体制づくりやICT支援員の配置について検討する。
今後の取り組み方針		
・機器の基本操作を習得するため、適時操作説明会を実施するとともに、年3回の指導スキル研修会を実施する。また、ITスキルに長けた教職員を中心としたOJTの体制作りや必要に応じてICT支援員の配置を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>9,698</td><td>9,698</td><td>7,758</td><td>1,940</td><td>0</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 9,698千円</div><div>備品購入費 9,698千円</div><div>（株）OCC 9,698千円</div><div>電子黒板 8台</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,698	9,698	7,758	1,940	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,698	9,698	7,758	1,940	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○3社見積により備品調達を行ったことから妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初予算より安価に機器の導入が図れたことから、予算規模は適正だったと考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的に沿って、電子黒板及び関連するソフトウェアの導入に限定したことから妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村											
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	3-⑥		伊平屋起業家人材育成事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－5－(2)－ア			
	担当部課名				総合推進室	事業実施 (予定)年度	平成26年～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	将来、島で企業する力を身に付けさせるため、児童・生徒にキャリア教育を実施する。											
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度 (年度)											
実施方法	□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他 ()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,235		4,791		4,908		4,248			
		(b) 予算現額	4,039		4,452		4,008		4,248			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 196		▲ 339		▲ 900		0			
		(d) 繰越額	0		0		0		0			
		A. 計 (b+d)	4,039		4,452		4,008		4,248			
	B. 執行済額		4,039		4,442		3,787		3,604			
	うち交付金充当額		3,231		3,561		3,029		2,883			
	次年度繰越額		0		0		0		0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%		99.8%		94.5%		84.8%			
	予算の状況の説明		学校側より、今年度職場体験の日数の削減要望があり2日間の減となってしまったこと、また授業時数の削減要望もあったため、旅費及び報償費の未執行644千円が不用額となっている。									
	活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況							
				26年度		27年度		28年度		29年度		
起業家人材育成 中学1年生17名 中学2年生17名 合計 34名			目 標	(3種程度の特産 品開発)		(人材育成 中学生39名)		(人材育成 中学生34名)		()		
			実 績	1種の特産品開発		人材育成 中学生39名		人材育成 中学生29名				
・特産品のモデル設定・商品開発			目 標	()		()		()		(商品完成)		
			実 績							商品完成		
・パッケージデザイン決定			目 標	()		()		()		(デザイン決定)		
			実 績							デザイン決定		
・商品の発表会			目 標	()		()		()		(発表会実施)		
			実 績							発表会実施		
本島への職場体験(商品の販売)及びマ ナー講座			目 標	()		()		()		(職場体験及び マナー講座実 施)		
			実 績							職場体験及び マナー講座実施		
達成 状 況 説 明	・村内在住の中学生が、県内企業と共同で、地域資源の掘り起こしを行い、モデル設定からパッケージデザインの決定を行い特産品開発を実施した。 ・前年度製作した特産品は進級した2年生時に本島での職場体験時、「特産品フェア」を実施し、販促体験を行った。											
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	27年度		28年度		29年度		目標値 (30年度)
	プレゼンカの向上 パワーポイント活用者中学1, 2年生徒34名 ※発表会開催(生徒による、パワーポイント を活用した発表)			目 標	()	(パワーポイント 活用者 39名)		(パワーポイント 活用者 39名)		(パワーポイント 活用者 34名)		()
				実 績		パワーポイント 活用者 39名		パワーポイント 活用者 29名		パワーポイント 活用者 34名		
	【H30成果目標】 キャリア教育を受けた児童生徒へのアン ケートで、働くことへの興味・関心が湧いた か(80%以上)を含め、当該事業のあり方を 検証する。			目 標	(-)	(-)		(-)		(-)		(80%以上)
	進 捗 状 況 説 明	本事業の成果目標である、プレゼンカの向上(発表会でのパワーポイント活用者数)については、対象生徒全員がパワーポイントを活用したことで、目標を達成した。										

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・プレゼンカの向上には、一定程度まとまった時間を確保しパワーポイントの扱い方について、学習する必要があるが、学校の指針（授業スケジュール）により、活用できる時数が増減するため、必要な時間を確保できない可能性がある。	・学校との連携を強化した上で、授業時数の調整などについては早い段階から調整を行い、必要な授業時数の確保を行う。
今後の取り組み方針		
・12月の発表会に向けて、8月から11月までに必要授業数を確保できるよう早い段階から調整を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		3,604	3,604	2,883	721	0
伊平屋村 3,604千円	→	報酬費 509千円	→	芸大教授・企業家 509千円	芸大教授 各メーカー部長・課長級	
	→	旅費 1,567千円	→	芸大教授・学生旅費・企業家・ 生徒・教諭旅費 1,567千円	芸大教授・学生・メーカー・ 島内教諭生徒の旅費	
	→	需用費 28千円	→	試作品用包材 28千円	試作品用カップ他	
	→	役務費 1,500千円	→	試作品作成手数料 広報用DVD作成手数料 1,500千円	試作品用原材料加工手数料 販売体験広報活動用DVD	
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○支出先については、この事業に突起した企業等を選択、継続的な事業であるため、専門性が高く妥当であると考え。	
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			△予算規模は事業内容を精査したところ、不用額があったため、見直す必要がある。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出に関する書類により確認し、適正であった。	

市町村名	伊平屋村									
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	4-①		幼稚園預かり保育支援事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
					地域における子育て支援の充実					
担当部課名	伊平屋村教育委員会				事業実施 (予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-9	
事業内容	伊平屋島の定住条件を整備するため、幼稚園預かり保育強化として嘱託保育士を配置する。									
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)									
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			(a) 当初予算額		1,750	1,700	1,700	2,268	2,268	
			(b) 予算現額		1,693	1,729	2,066	2,268	2,268	
			(c) 増減額(b-a)		▲ 57	29	366	0	0	
			(d) 繰越額		0	0	0	0	0	
			A. 計(b+d)		1,693	1,729	2,066	2,268	2,268	
	B. 執行済額		1,693	1,729	2,066	2,208	2,157			
	うち交付金充当額		1,354	1,383	1,360	1,766	1,725			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	95.1%			
予算の状況の説明		毎月の勤務日数の変動により不用額111千円が生じたが、事業計画通りに執行できた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況					
						26年度	27年度	28年度	29年度	
	嘱託保育士の配置:1名				目 標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
					実 績	1名	1名	1名	1名	
					目 標	()	()	()	()	
					実 績					
達成状況説明	伊平屋幼稚園において、年度当初の平成29年4月から平成30年3月の期間、保育士1名を配置した。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	預かり保育対象児童数:6名				目 標	()	(負担軽減 健全育成)	(6名 負担軽減)	(6名 負担軽減)	(保護者の 満足度) 80%以上
					実 績		負担軽減 健全育成	8名 負担軽減	16名 負担軽減	
	【H30成果目標】 保護者へのアンケートで、預かり保育により育児の負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。				目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(80%以上)
	進捗状況説明	16名(幼稚園在籍幼児17名中)の預かり保育対象児童に対して預かり保育を実施し、共働き世帯の負担軽減、園児の健全育成の推進に寄与し、目標を達成出来た。								

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<ul style="list-style-type: none">・多様化する保護者からの要望（保育時間の延長等）に対応した預かり保育が求められている。・預ける側（保護者）の要望に対応するためには、保育士の確保が必要だが、限られた人材で預かり保育を行うためには、預かる側（幼稚園）の現状（勤務体制、休日の設定等）を把握する必要がある。	<ul style="list-style-type: none">・多様化する保護者からの要望に対応した預かり保育を行うため、スタッフの配置や管理体制等について検証を行う必要がある。・預ける側（保護者）の要望を確認するだけでなく、預かる側（幼稚園）の現状（勤務体制、休日の設定等）を把握してもらうことで、双方向の理解を深めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none">・多様化する保護者からの要望に対応した預かり保育を行うため、適正なスタッフの配置や管理体制等について適時検証を行う。・保護者説明会（意見交換会）を定期的に行うことで、預ける側（保護者）、預かる側（幼稚園）の双方向理解を深めていく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,189</td><td>2,157</td><td>1,725</td><td>432</td><td>32</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 2,157千円</div><div>賃金 2,157千円</div><div>保育士賃金 2,157千円</div><div>対象外経費 32千円</div><div>嘱託保育士の配置に係る 臨時職員賃金：1名</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,189	2,157	1,725	432	32
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,189	2,157	1,725	432	32										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出費目は保育士賃金のみであり、公募による募集を行い選定したことから妥当であった。 ○予算規模は保育士1名の賃金であり、事業内容に見合った適正な規模である。 ○保護者より預かり保育料を適切に徴収しており受益者との負担関係は妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4－②		慢性疾患児童等通院時渡航費助成事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ		
担当部課名	住民課			事業実施 (予定)年度	平成25～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－9	
事業内容	島内に無い専門医療機関の受診促進のため、通院に要する船賃、宿泊費等を助成する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
			(a) 当初予算額		2,160	2,161	1,589	1,589	1,272		
			(b) 予算現額		189	1,307	1,619	852	1,585		
			(c) 増減額(b-a)		▲ 1,971	▲ 854	30	▲ 737	313		
			(d) 繰越額		0	0	0	0	0		
			A. 計(b+d)		189	1,307	1,619	852	1,585		
			B. 執行済額		189	1,307	1,567	852	1,323		
			うち交付金充当額		151	1,046	1,254	682	1,058		
			次年度繰越額		0	0	0	0	0		
			執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.8%	100.0%	83.5%		
		予算の状況の説明		当初想定していた通院回数より多くなったため、12月補正でその分の予算313千円を増額補正した。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
						26年度	27年度	28年度	29年度		
	慢性疾患児童等通院時渡航を支援する。 48回				目 標	(96回)	(60回)	(30回)	(48回)		
					実 績	33回	72回	47回	63回		
					目 標	()	()	()	()		
					実 績						
達成状況説明	当初目標の48回より15回多い渡航費支援を行った。										
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)	
	専門医通院治療に係る住民負担の軽減				目 標	()	(住民負担 の軽減)	(住民負担 の軽減)	(住民負担 の軽減)	()	
					実 績		住民負担の軽減	住民負担の軽減	住民負担の軽減		
	【H30成果目標】 渡航費支援が必要な住民への支援率 100%				目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(100%)	
	進捗状況説明	小児慢性特定疾患2名、その他慢性疾患等12名の計14名が利用し、1人当たり4.5回の島外専門医療機関受診に係る渡航費助成を行い、専門医通院治療に係る住民負担の軽減につながった。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・慢性疾患等は小児に限るものではないため、その他の住民についても同様な負担が強いられている。	・小児以外の慢性疾患等についても渡航費支援を検討し、住民が抱える経済的負担等の軽減を図る。
今後の取り組み方針		
・県事業では対象とならない慢性疾患等で島外医療機関への通院を余儀なくされている住民に対して、経済的負担の軽減や適切な医療が受けられるよう渡航費を支援する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>1,323</td><td>1,323</td><td>1,058</td><td>265</td><td>0</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 1,323千円</div><div>負担金補助金及び助成金 1,323千円</div><div>慢性疾患児童等 通院対象者 1,323千円</div><div>小児慢性特定疾患等の治療のための通院に係る渡航費助成</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,323	1,323	1,058	265	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,323	1,323	1,058	265	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は助成対象者のみ該当するため、妥当である。 ○通院回数が増により当初予算の増額はあったものの、予算規模は適正である。 ○離島の特殊事情に伴う地域格差是正に係る額を要綱に基づき助成するため、受益者負担は妥当である。 ○費目・使途については申請段階で審査するため、目的に即し、必要と判断している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村											
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	4－③		ウェルネスいへや推進事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ			
担当部課名	住民課			事業実施(予定)年度		平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－9		
事業内容	病気にかからない健康づくりのため、各字公民館にフィットネスプログラム映像機器設置(CG映像を活用した運動メニューの提供)及び健康教室を開催する。											
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)											
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			27年度		28年度		29年度		30年度		31年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,891		3,207		4,710					
		(b) 予算現額	4,107		3,207		4,250					
		(c) 増減額(b-a)	▲ 784		0		▲ 460		0		0	
		(d) 繰越額	0		0		0					
		A. 計(b+d)	4,107		3,207		4,250		0		0	
	B. 執行済額		4,107		3,149		4,149					
	うち交付金充当額		3,258		2,519		3,319					
	次年度繰越額		0		0		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%		98.2%		97.6%		#DIV/0!		#DIV/0!	
予算の状況の説明		フィットネスプログラム映像機器のサポート団体の来島人数が減したため、460千円を減額補正した。										
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況								
					27年度		28年度		29年度		30年度	
	フィットネスプログラム映像機器を5集落に設置			目 標	(5集落)		(5集落)		(5集落)		()	
				実 績	5集落		5集落		5集落			
	フィットネスプログラムを活用した健康教室の開催 年間28回			目 標	(12回)		(12回)		(28回)		()	
				実 績	61回		25回		29回			
達成状況説明	各字公民館、伊平屋村離島振興総合センター等においてフィットネス映像機器を使用した健康教室を29回行い、目標を達成した。											
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)			
	①住民健診の受診率の向上 H26年度 59.9% → H29年度 65.0%			目 標	()	(65%)	(65%)	(65%)	()			
				実 績			59%	65%	60%			
	②1人当たりの運動習慣の向上 H26年度 41% → H29年度 55%			目 標	()	(50%)	(55%)	(55%)	()			
				実 績			41%	36.9%	36.9%			
	【H30成果目標】 各種健康イベントへの総参加者数600人以上			目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(600人以上)			
進捗状況説明	①住民健診の受診率の向上については、60%となっており、目標を下回った。 ②1人当たりの運動習慣の向上については、36.9%となっており、目標を下回った。											

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<div>・住民健診開催日は村独自のカレンダー（村が配布している村のイベントが記載されたもの）に記載していたものの、直近の周知が不足しており、開催日を失念している方が多かった。</div> <div>・20代～60代の方（働き世代）は、仕事・子育て中心のライフスタイルのため運動を定着させることが困難なことから、村全体で運動習慣を身に付けられるような取り組みを行う必要がある。</div>	<div>・受診率の更なる向上に向け、村広報誌への掲載や行政無線での呼びかけを行い、周知を広める必要がある。</div> <div>・村内スポーツ大会の開催前に練習期間を設けることで、日ごろ運動しにくい20代～60代（働き世代）が運動できる環境を提供し、運動習慣の定着化に向けての動機付けを行う。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・受診率の更なる向上に向け、カレンダーの配布や住民健診直前に防災無線や広報車両を活用した啓蒙活動を実施する。</div> <div>・村内スポーツ大会（年3回）開催前に練習期間を運動習慣定着期間と捉え、区長会等を通じて積極的な参加を呼びかける。</div>		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）																
<div><table><tr><th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象 事業費</th><th colspan="2">交付金 充当額</th><th rowspan="2">交付対象 外経費</th></tr><tr><th>市町村 負担金</th><th></th></tr><tr><td>4,149</td><td>4,149</td><td>3,319</td><td>830</td><td>0</td></tr></table><div><div>伊平屋村 4,149千円</div><div><div>報償費 105千円</div><div>旅 費 614千円</div><div>需用費 75千円</div><div>委託料 445千円</div><div>使用料及び賃貸料 2, 910千円</div></div><div><div>謝礼金</div><div>費用弁償</div><div>消耗品費</div><div>株式会社ネオ・プランニング 445千円</div><div>フィットネスプログラム映像器機使用料</div></div><div>「いへやウォーキングマップ」看板製作・設置業務委託</div></div></div>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費	市町村 負担金		4,149	4,149	3,319	830	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費												
		市町村 負担金														
4,149	4,149	3,319	830	0												
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明												
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者は3社より見積書を徴し、最低価格業者と随意契約しており、妥当であったと考える。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○支出先については、フィットネスプログラム映像機器のサポート団体や専門的な講師招いた際の旅費や謝礼、機器等の借上料であり、本事業の運営に必要と判断したため妥当である。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○予算規模については、事業内容にあった機器や講師謝礼等であり真に必要な経費を支出したため適正である。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については、精算段階等で確認し、事業実施に必要なものであったと判断した。												

市町村名	伊平屋村										
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	4－④		住民健診フォローアップ推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ		
担当部課名	住民課			事業実施 (予定)年度		平成27～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－9	
事業内容	がん検診等において要精密検査となった者やメタボリック・シンドローム及びその予備軍を対象とした二次健(検)診の受診にかかる渡航費を支援する。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)	予算 の 状 況				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		
			(a) 当初予算額		1,114	1,094	912				
			(b) 予算現額		261	438	280				
			(c) 増減額(b-a)		▲ 853	▲ 656	▲ 632	0	0		
			(d) 繰越額		0	0	0				
			A. 計(b+d)		261	438	280	0	0		
			B. 執行済額		261	412	154				
			うち交付金充当額		209	330	123				
			次年度繰越額		0	0	0				
			執行率(%) (B/A)		100.0%	94.1%	55.0%	#DIV/0!	#DIV/0!		
		予算の状況の説明 当初想定していた数より対象者が減少した分の予算632千円減額補正した。 不用額については申請書を審査し、対象外経費等を除いたことによるものである。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)				達成状況						
						27年度	28年度	29年度	30年度		
	住民健診等による精密検査等再検査の渡航費支援50人				目 標	(60人)	(24人)	(50人)	()		
					実 績	16人	33人	14人			
					目 標	()	()	()	()		
					実 績						
	達成状況説明	当初は50人に支援予定であったが、出張等で渡航した際に受診したなどの理由については対象外としたため、14人にとどまった。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)					基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)	
	精査等未受診率の減 H27年度 51% → 平成29年度 30%				目 標	()	(30%)	(30%)	(30%)	()	
					実 績		30%	20.4%	9.09%		
	【H30成果目標】 渡航費支援が必要な住民への支援率100%				目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(100%)	
	進捗状況説明	当初は30%の未受診率を想定したが、渡航費支援や個別勧奨等により未受診率が9.09%となり、目標を達成した。									

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<div>・経済的理由により渡航を断念する者も想定されるため、今後も支援の継続が必要と考える。また、仕事や家庭の状況などにより渡航が難しい者に対してどのような支援が必要か検討する必要がある。</div> <div>・要精査の必要性を説明し、受診を促す必要がある。</div>	<div>・個々の状況により、渡航が難しいものに対して、どのような支援ができるのか意見交換の場を作り、求めているニーズを確認する。加えて、当該事業について更なる啓蒙活動を行い、住民負担の軽減を図る。</div> <div>・要精査者に対して個別勧奨を強化し、精査の必要性について理解してもらう。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・意見交換の場を作ることで、ニーズを把握し、個々に応じた支援を行う。</div> <div>・精査のできる医療機関の紹介や当該事業の活用方法を周知し、要精査者が受診しやすい環境を整備する。加えて、要精査者へ精査受診のメリット・デメリットを説明し、受診勧奨を強化する。</div>		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<div><table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>153</td><td>153</td><td>123</td><td>30</td><td>0</td></tr></table><div><div>伊平屋村 153千円</div><div>負担金補助金及び助成金 153千円</div><div>住民健診フォローアップ通院対象者 153千円</div><div>（住民健診フォローアップのための通院に係る渡航費助成）</div></div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	153	153	123	30	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
153	153	123	30	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は助成対象者のみ該当するため、妥当である。 ○申請に対しての助成となるため、事業内容に見合い適正である。 ○離島の特殊事情に伴う地域格差是正に係る額を助成するため受益者負担は妥当である。 ○費目・使途については申請段階で審査するため、目的に即し必要と判断している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村											
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	4－⑤		地域自立支援推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－2－(7)－ア			
担当部課名	総務課			事業実施 (予定)年度		平成24年～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		県民の社会参加活動の促進と 協働の取組の推進		
事業内容	行政と地域が協働して行う島づくりの体制を構築するため地域が自主的に考え、取組を実践するための、ワークショップ開催を支援する。											
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)											
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			25年度		26年度		27年度		28年度		29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,000		2,500		500		500		500	
		(b) 予算現額	2,837		1,844		540		752		500	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 5,163		▲ 656		40		252		0	
		(d) 繰越額	0		0		0		0		0	
		A. 計(b+d)	2,837		1,844		540		752		500	
	B. 執行済額		2,837		1,844		540		752		497	
	うち交付金充当額		2,269		1,475		432		602		397	
	次年度繰越額		0		0		0		0		0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		99.4%	
予算の状況の説明		前年度と同額の利用を見込み当初予算を計上し、事業計画どおり執行できた。										
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況								
					26年度		27年度		28年度		29年度	
	行動計画の実施及び成果確認 (ワークショップ10回)			目 標	()	(ワークショップ 10回)	(ワークショップ 10回)		(ワークショップ 10回)			
				実 績		ワークショップ 10回		ワークショップ 10回		ワークショップ 10回		
				目 標	()	()	()		()			
				実 績								
	達成 状況 説明	設置した活動目標回数は達成でき、ワークショップ内容も住民主導型の島づくりの体制構築がなされた										
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値 (年度)	27年度		28年度		29年度	
行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化			目 標	()	(体制強化)	(体制強化)		(体制強化)		()		
			実 績		体制強化の実施		体制強化の実施		体制強化の実 施			
作成した行動計画の着実な実施			目 標	()	(行動計画 の実施)	(行動計画 の実施)		(行動計画 の実施)		()		
			実 績		行動計画実施完了		行動計画実施完了		行動計画実施完了			
進 捗 状 況 説明		ワークショップなどの行動計画や意見交換等で地域より挙げられた諸計画が遂行され、住民の地域行事への参加が促進されている。また、地域住民による地域自立促進のための収益事業の企画案がまとまっている。これらの結果から、島づくり体制の強化や作成した行動計画の着実な実施が達成できた。										

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・各地域で出た意見を踏まえ、地域・集落作りを進めていく際には、幅広い年齢層が集まれるよう留意する必要がある。	・各地域において、たくさんの島民がまちづくりに参加できるように、集会日程の調整や進捗状況等については、細目に情報共有を行えるよう工夫する。
今後の取り組み方針		
・できるだけたくさんの島民が各地域のまちづくりに参加できるように、広報誌等を活用し、集会日程や進捗状況について細目に情報共有を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>497</td><td>497</td><td>397</td><td>100</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	497	497	397	100	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
497	497	397	100	0										
<div><div>伊平屋村 497千円</div><div>委託料 497千円</div><div>協同組合 沖縄産業計画 497千円</div><div>伊平屋村地域自立支援推進計画策定業務委託（ワークショップ開催支援 10回）</div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務については、前年度からの継続事業であり、事業内容の熟知と地域の実情把握等を鑑み選定していることから適正と考える ○予算規模は、事業内容であるワークショップ開催回数と合わせ適正であると考え ○費目・使途については、事業目的達成の観点から確認。額の確定については、報告書等で確認し適正と判断している											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村									
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	4－⑥		集落環境整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－2－(7)－ア	
担当部課名	総務課			事業実施(予定)年度	平成25年～29年度			沖縄振興基本方針該当箇所	県民の社会参加活動の促進と協働の取組の推進	
事業内容	地域住民による自助・共助・公助の仕組み作りを促進するため、住民協働による清掃活動、拝所の修繕、危険箇所対策等主体的な取組について支援する。									
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)									
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()									
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			(a) 当初予算額	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		
			(b) 予算現額	3,000	5,000	5,000	5,000	4,747		
			(c) 増減額(b-a)	▲ 2,000	0	0	0	▲ 253		
			(d) 繰越額	0	0	0	0	0		
			A. 計(b+d)		3,000	5,000	5,000	5,000	4,747	
			B. 執行済額		3,000	5,000	5,000	3,800	4,000	
			うち交付金充当額		2,400	4,000	3,840	3,040	3,200	
			次年度繰越額		0	0	0	0	0	
			執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	76.0%	84.3%	
		予算の状況の説明 当初の計画通り1地区1,000千円ずつ3地区に助成した。3月に253千円補正減。残り2地区に関しては年度末実績検査の結果、747千円の不用額となった。								
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)			達成状況						
					26年度	27年度	28年度	29年度		
	実施計画 1. 地域住民による美化・緑化活動(集落内公園等や集落道の環境及び美化作業) 2. 地域住民による集落景観の保全、危険箇所の改善(集落内の排水路、不在住宅及び敷地の補修等) 3. 地域文化の保全、社会教育活動の推進(豊年祭、スポーツイベント等) 4. 地域住民による、自助、協助・公助の推進に係る取組(上記1. 2. 3関連) 5. 地域防災体制の構築に係る取組(地域防災計画に基づく点検作業)			目 標	(計画支援実施 5集落)	(計画支援実施 5集落)	(計画支援実施 5集落)	(計画支援実施 5集落)		
			実 績	計画支援実施 5集落	計画支援実施 5集落	計画支援実施 4集落	計画支援実施 5集落			
達成状況説明		1. 老人会・婦人会が中心となり花いっぱい運動や公園・集落等の清掃等を行った。 2. 青年会・壮年会世代が中心となり集落内の排水溝・危険箇所等の改善・補修作業を行った。 3. 豊年祭やその他古くから行われている地域行事等への参加、スポーツイベント等を通して社会教育活動の推進に取り組んだ。 4. 各集落の地域住民が率先して様々な地域行事等へ参加することにより自助・協助・公助の推進、各年代の地域住民が協力して取り組んだ。 5. 地域による防災の意識を育むため、避難訓練等を各地域で行うことにより、避難場所等の位置確認などを共有し、災害等から身を守る防災意識を高めることが出来た。								
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)				基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
	行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化			目 標	()	(体制強化 5集落)	(体制強化)	(体制強化)	()	
				実 績		体制強化 5集落	体制強化	体制強化		
	作成した行動計画の着実な実施			目 標	()	(行動計画 実施 5集落)	(行動計画 実施)	(行動計画 実施)	()	
				実 績		行動計画実施 5集落	行動計画実施	行動計画実施		
	進捗状況説明		行政と住民が協働で行う島づくり体制の強化及び作成した行動計画の着実な実施については、各集落で抱える問題を拾い上げ、その問題を元に行動計画を作成し、集落組織として着実に実施することができた。具体的な取組として、各集落の環境美化及び拝所等の安全対策としてハブ等の危険生物が出没する箇所の環境整備や害虫発生対策として集落内排水溝等の清掃を実施した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<div>・多くの地域住民が参画できる雰囲気作りを日頃から行う必要がある。</div> <div>・自分で出来る事、各集落で生活を営んでいる住民が出来る事、行政の力を投入すれば出来る事を住民同士が見極め、諸問題に取り組む必要がある。</div>	<div>・毎年度新たな住民として移住されてくる島外からの方も積極的に地域活動に参画できるよう地域住民からの積極的な呼びかけが出来るよう体制強化を図る。</div> <div>・諸問題に取り組むためには、同事業を導入する事で得たノウハウを今後は集落運営に積極的に反映させる。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・集落内での諸活動への住民参加率の向上に係る取組を集落自ら行う。</div> <div>・自助・共助・公助の考えを踏まえ、同事業を導入することで得たノウハウを反映し、諸問題に取り組む。</div>		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<div><table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>4,000</td><td>4,000</td><td>3,200</td><td>800</td><td>0</td></tr></table><div><div><div>伊平屋村 4,000千円</div><div>負担金補助 及び交付金 4,000千円</div><div><div>田名区 1,000千円</div><div>前泊区 1,000千円</div><div>島袋r区 1,000千円</div><div>我喜屋区 873千円</div><div>野甫区 127千円</div></div><div><div>集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）</div><div>集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）</div><div>集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）</div><div>集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）</div><div>集落環境整備に係る重機使用料、 資材費、雑費（部品費、燃料費等）</div></div></div></div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,000	4,000	3,200	800	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,000	4,000	3,200	800	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は各集落のため妥当である。 ○予算の規模は事業内容と合わせ適正である。 ○受益者負担については、各集落に於いて補助金以上の事業設定がなされており、補助金での対応分以外を集落で負担していることで妥当であると考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点からも必要なものなのか等について額の確定時において、予算額と支出額等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊平屋村												
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名		4ー⑦自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－ア								
担当部課名		総務課		事業実施(予定)年度		平成24年～33年度								
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－9								
事業内容		本村と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減し定住環境の改善を図るため、その一部を支援する。												
効果発現年度		■当年度□後年度(年度)												
実施方法		□直接実施□委託■補助□負担□その他()												
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
		予算の状況	(a) 当初予算額		22,857		38,573		45,607		55,104		57,100	
			(b) 予算現額		37,902		49,525		52,933		56,767		65,074	
			(c) 増減額(b-a)		15,045		10,952		7,326		1,663		7,974	
			(d) 繰越額		0		0		0		0		0	
			A. 計(b+d)		37,902		49,525		52,933		56,767		65,074	
		B. 執行済額		37,902		47,568		52,933		56,635		64,464		
		うち交付金充当額		30,321		38,054		42,346		45,308		51,571		
		次年度繰越額		0		0		0		0		0		
		執行率(%) (B/A)		100.0%		96.0%		100.0%		99.8%		99.1%		
予算の状況の説明		前年度と同額程度の利用を想定し当初予算を計上したが、想定を上回る利用があったため補助金を7,974千円増額補正した。												
活動目標(指標)及び達成状況		H29活動目標(指標)			達成状況									
					26年度		27年度		28年度		29年度			
		自動車航走運賃の低減 H29年度:年間5,496台 (H26年度:4570台)			目 標	(自動車航送運賃の低減)	(自動車航送運賃の低減 年間4,380台)	(自動車航送運賃の低減 年間5,448台)	(自動車航送運賃の低減 年間5,496台)					
					実 績	4,570台	5,097台	5,455台	6,168台					
					目 標	()	()	()	()					
					実 績									
達成状況説明	設定した活動目標は達成できた。 目標以上の成果となった要因を検証すると対前年と比較すると12ヶ月中11ヶ月は増となっている。そのことから考察すると村民の経済活動の活性化、村民への事業周知が浸透してきていると考える。 4月:527台、5月:518台、6月:522台、7月:558台、8月:566台、9月:476台、10月:357台、11月:548台、12月:608台、1月:467台、2月:499台、3月:522台													
成果目標(指標)及び進捗状況		H29成果目標(指標)			基準値(年度)		27年度		28年度		29年度		目標値(30年度)	
		車輦航送運賃の補助による定住環境の改善			目 標	()	(車輦航送運賃の補助による定住環境の改善)	(車輦航送運賃の補助による定住環境の改善)	(車輦航送運賃の補助による定住環境の改善)	()				
					実 績		車輦航送運賃の補助による定住環境の改善	車輦航送運賃の補助による定住環境の改善	車輦航送運賃の補助による定住環境の改善					
		【H30成果目標】 沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。			目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(80%以上)				
		進捗状況説明	沖縄本島との唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、自動車航送運賃の助成を実施したことで、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等沖縄本島における移動手段が確保されたことにより、村民の経済的負担の軽減が図られ、定住環境の改善がなされた。											

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・運天港と前泊港双方で車輛予約が可能であるが、双方の予約状況に齟齬（連絡ミス等）が生じている。	・職員間の口頭やメールでのやりとりだと、連絡ミスや行き違い等が懸念されるため、運天港、前泊港に予約システムの導入を検討する。
今後の取り組み方針		
・車輛航送システムの導入を実施し、沖縄本島の窓口である運天港と本村フェリーの停泊地前泊港双方向で予約状況を目視出来るモニターの設置並びに、操作方法を職員に浸透させる。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>64,464</td><td>64,464</td><td>51,571</td><td>12,893</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	64,464	64,464	51,571	12,893	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
64,464	64,464	51,571	12,893	0										
<div><div>伊平屋村 64,464千円</div><div>補助金 64,464千円</div><div>伊平屋村船舶運航事業者 64,464千円</div><div>住民への自動車航送 運賃低減相当額にかかる補助金</div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性があり妥当である。 ○予算規模については、増額補正があったものの概ね妥当である。 ○受益者負担については沖縄離住民等交通コスト負担軽減事業を参考に行っている(36.4%)のため妥当である。 ○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊平屋村														
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】																
事業番号・事業名		4－⑧		不法投棄未然防止事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上						
担当部課名		住民課		事業実施 (予定)年度		平成28年～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ－9						
事業内容		島の観光資源である自然環境維持保全と生活環境の改善を図るため、不法投棄の処理を行うとともに、不法投棄根絶協議会を設立する。														
効果発現年度		■当年度 □後年度(年度)														
実施方法		□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()														
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)				28年度		29年度		30年度		31年度		32年度				
		予算 の 状 況	(a) 当初予算額		3,000		30,000									
			(b) 予算現額		3,000		29,400									
			(c) 増減額 (b-a)		0		▲ 600									
			(d) 繰越額		0		0									
			A. 計 (b+d)		3,000		29,400									
		B. 執行済額		2,905		27,886										
		うち交付金充当額		2,324		22,308										
		次年度繰越額		0		0										
		執行率 (%) (B/A)		96.8%		94.9%										
予算の状況の説明		当初予算を計上したが、不法投棄されたごゴミを分別することで、処理単価が下がり600千円の減額補正ができた。														
活動目標 (指標) 及び達成状況		H29活動目標(指標)			達成状況											
					28年度		29年度		30年度		31年度					
		・不法投棄根絶協議会設立			目 標	(ー)		(協議会設立)		()		()				
					実 績	ー		協議会設立								
		・不法投棄物回収及び処理業務の発注			目 標	(ー)		(10回処理)		()		()				
					実 績	ー		13回処理								
		【参考指標】 ・残存、新規不法投棄の数量調査の実施			目 標	(数量調査の実地)				()		()				
					実 績	数量調査完了										
		達成状況説明	設定した活動目標は概ね達成できた。 運搬回数 (有)益商会 2回、(合)伊平屋運輸 12回、北部港運 5回、 処理回数 (有)益商会 2回、(株)宮里 3回、街クリーン(株) 5回、 牧港商事(株) 3回													
		成果目標 (指標) 及び進捗状況		H29成果目標(指標)					基準値 (年度)		28年度		29年度		30年度	
・不法投棄根絶協議会設立活動開始				目 標	()		(方向性の確立)		(1回)		()		()			
				実 績			検討協議会にて方向性の確立		1回							
・不法投棄物回収及び処理業務の完了				目 標	()		(不法投棄調査の完了)		(不法投棄回収・処理)		()		()			
				実 績			不法投棄調査の完了		不法投棄回収・処理							
【H30成果目標】 不法投棄の発生件数 0件				目 標	()		()		()		()		(0件)			
進捗状況説明	・各集落の区長が委員となり、協議会を設立。各集落の不法投棄の現状・改善策が話し合われた。 ・不法投棄物回収及び処理業務を完了した。															

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<div>・村民や観光客等へ不法投棄に対する意識改革を行う必要がある。</div> <div>・村内商店周辺や港周辺の不法投棄について、対策を行う必要がある。</div>	<div>・港湾内にゴミ分別、不法投棄防止のPOPを掲示したり、村内での諸般行事（各集落行事含む）の際にの呼びかけや、定期的な見回り等の対策を検討する。</div> <div>・村内商店周辺や港湾周辺に分別ゴミ箱の設置や集積場所の確保を行うよう協議会と検討する。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・新たな不法投棄を防ぐため、不法投棄防止のPOPの掲示や看板の設置、集会時の呼びかけ及び定期的な見回り等を行うことで、意識改革を行う。</div> <div>・各ポイントに分別ゴミ箱の設置を行い、不法投棄0件を目指す。</div>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>27,886</td><td>27,886</td><td>22,308</td><td>5,578</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	27,886	27,886	22,308	5,578	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
27,886	27,886	22,308	5,578	0										
<div><div><div>伊平屋村 27,886千円</div><div>委託費 19,449千円</div><div>委託費 8,437千円</div></div><div><div>(有)ジオプラン 13,068千円</div><div>(有)益商会 234千円</div><div>(株)宮里 689千円</div><div>(合)伊平屋運輸 2,592千円</div><div>北部港運(株) 1,269千円</div><div>街クリーン(株) 1,597千円</div><div>(有)ジオプラン 5,994千円</div><div>(合)伊平屋運輸 1,296千円</div><div>牧港商事(株) 1,147千円</div></div><div><div>不法投棄未然防止事業</div><div>不法投棄未然防止事業②</div></div></div>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性が確保できるよう契約毎に複数社より見積を徴し精査・入札に附しており妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、減額補正があったものの概ね妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。											

市町村名		伊平屋村						
平成 2 9 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名		4－⑨	生ゴミ等循環型資源活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ		
担当部課名		住民課	事業実施(予定)年度	平成28年～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上		
事業内容		海浜の環境衛生改善及びゴミ焼却施設のコスト低減を図るため、環境保全啓蒙活動、処理システムの整備を行う。						
効果発現年度		■当年度 □後年度(年度)						
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
		予算の状況	(a) 当初予算額	2,500	10,133			
			(b) 予算現額	2,500	9,729			
			(c) 増減額(b-a)	0	▲ 404			
			(d) 繰越額	0	0			
			A. 計(b+d)	2,500	9,729			
		B. 執行済額		1,234	9,422			
		うち交付金充当額		987	7,537			
		次年度繰越額		0	0			
		執行率(%) (B/A)		49.4%	96.8%			
予算の状況の説明		本年度の主な経費は、生ゴミの循環型活用のための検討委員会経費、ワークショップ開催経費、分別・回収フィールド実証及び回収物成分分析等経費、講演会経費、事業報告書の印刷経費等である。検討委員会にかかる経費については、直接払いでその他の経費については業者へ委託した。又委託契約について入札残が生じ減額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況		H29活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度	
		・生ゴミ等処理に係るワークショップ開催	目 標	(協議会発足)	(検討委員会3回、ワークショップ5ヶ所開催)	()	()	
			実 績	協議会発足	検討委員会5回 ワークショップ5ヶ所開催			
		・分別・回収のフィールド実証	目 標	()	(分別9日 回収2回)	()	()	
			実 績		分別9日 回収2回フィールド実証完了			
		・啓蒙活動に係る講演会の開催	目 標	(啓蒙活動の徹底)	(講演会1回、報告書作成)	()	()	
			実 績	啓蒙活動の一部実施	講演会1回、報告書作成完了			
		達成状況説明	・検討委員会開催は当初3回を予定していたが、分別・回収フィールド実証を行うにあたり各字代表である検討委員会を臨時で2回追加開催し、計5回の開催となり目標を達成した。 ・ワークショップは講師を招聘し、各字1回×5ヶ所で予定通り開催し、目標を達成した(計103人の住民参加があった)。 ・「分別・回収フィールド実証」では、戸別収集方式50ヶ所、ステーション収集方式50ヶ所の世帯に協力してもらい9日間の分別、2回の回収フィールド実証を予定通り行うことが出来目標を達成した。 ・啓蒙活動に係る講演会の開催については、伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用事業委託業務報告書の策定が完成した。					

H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	①生ゴミ等処理に係るワークショップ開催による村民の意識向上	目 標	()	()	検討委員会3回開催 ワークショップ 5ヶ所開催	()	()
		実 績			検討委員会5回開催、 ワークショップ5ヶ所開催完了		
	【参考指標】 ・先進地視察	目 標		(先進地調査完了)	()	()	()
		実 績		調査完了			
	②分別・回収フィールド実証による効果の把握	目 標		()	生ゴミの量及び組成成分を把握、	()	
		実 績			生ゴミ量及び組成成分把握、回収方法決定 完了		
	③啓蒙活動に係る講演会開催による村民の意識向上	目 標	()	(意識向上)	講演会及び本事業の報告会1回実施完了	()	()
		実 績		意識の向上実地	講演会及び本事業報告会1回実施完了		
	【H30成果目標】 堆肥化された生ゴミぼ量 4.2トン以上		目 標	()	()	()	(4.2トン以上)
	進捗状況説明	①検討委員会は臨時開催を含め計5回開催、ワークショップは5ヵ所で開催することができ、目標を達成した。(計103人の住民が参加) ②分別・回収フィールド実証による効果の把握については、生ごみの量及び組成成分の把握、回収方法の決定(ステーション収集方式を採用)を行うことができ、目標を達成した。 ③啓蒙活動に係る講演会開催による村民の意識向上については、講演会の開催及び「伊平屋村生ゴミ等循環型資源活用事業委託業務報告書」の策定が完成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題について、「他人事」から「自分事」だと意識を変えてもらい、本事業の取り組みを浸透させる必要がある。 ・本事業については、島外者の協力も必要になってくるため、対応策を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の取り組みを浸透させるため、ワークショップや意見交換会を実施し、ゴミの堆肥化や減量化及び分別方法等について見直しを行い、地域単位できちんと分別できるような仕組みを検討する。 ・島外者へゴミの分別について周知を行うための仕組みを検討する。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の取り組みを浸透させるため、定期的な意見交換会等を行い、分別方法等について見直しを行う。また、分別率の悪い地域への分別方法の助言指導を行う。 ・周辺住民にも協力してもらい、島外者への指導の一翼を担ってもらうための仕組み(分別ごみ箱の設置や設置場所の呼びかけ等)を構築する。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
<div> <div> <div>伊平屋村 9,422千円</div> <div> <div>委託費 8,748千円</div> <div> <div>(株)南西環境研究所 8,748千円</div> </div> </div> <div> <div>報償費 447千円</div> <div> <div>検討委員報償費 447千円</div> <div>検討委員会</div> </div> </div> <div> <div>旅費 172千円</div> <div> <div>費用弁償 172千円</div> <div>講師2人分</div> </div> </div> <div> <div>需用費 47千円</div> <div> <div>消耗品費 47千円</div> <div>ファイル等</div> </div> </div> <div> <div>会場使用料 8千円</div> <div>住民説明会場 産業拠点連携センター</div> </div> </div> </div>				
		総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額
		9,422	9,422	7,537
				市町村 負担金
				1,885
				交付対象 外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については入札を実施しており妥当である。 ○予算規模は事業内容と合わせて適正である。 ○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		伊平屋村													
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】															
事業番号・事業名		4－⑩ 離島食品・日用品輸送費等支援実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(11)－ア								
担当部課名		船舶課		事業実施（予定）年度		平成28～33年度		交通・生活コストの低減							
						沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－9							
事業内容		離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から伊平屋島、野甫島へ郵送される食品や衣類・履物、日用品、衣料品、保険医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。													
効果発現年度		■ 当年度 □ 後年度（ 年度）													
実施方法		□ 直接実施 □ 委託 ■ 補助 □ 負担 □ その他（ ）													
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）				28年度		29年度		30年度		31年度		32年度			
		予算の状況	(a) 当初予算額	5,080		3,546									
			(b) 予算現額	1,903		3,546									
			(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,177		0		0		0		0			
			(d) 繰越額	0		0									
			A. 計 (b+d)	1,903		3,546		0		0		0			
		B. 執行済額		1,392		3,132									
		うち交付金充当額		1,113		2,506									
		次年度繰越額		0		0									
		執行率（％）(B/A)		73.1%		88.3%		#DIV/0!		#DIV/0!		#DIV/0!			
予算の状況の説明		年度末の事業者からの実績報告・領収書確認等が間に合わないため、3月分に関して3/22で締めて実績報告を行っている。その為、3/23以降分に関しては、単独予算で対応しているため不用額が生じている。													
活動目標（指標）及び達成状況		H29活動目標（指標）		達成状況											
				28年度		29年度		30年度		31年度					
		食品、衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具、器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目 標	（ 支援の実施 ）		（ 支援の実施 ）		（ ）		（ ）					
			実 績	支援実施		支援実施									
			目 標	（ ）		（ ）		（ ）		（ ）					
			実 績												
達成状況説明		登録店舗数6店舗は本村の主な店舗数を網羅し、村全域での価格低減が図られている。													
成果目標（指標）及び進捗状況		H29成果目標（指標）				基準値（ 年度）		28年度		29年度		30年度		目標値（ 年度）	
		沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差（沖縄本島を100とした場合の指数）の縮小 (参考) H27指標：128.9 H28指数128.9	目 標	（ ）		（ 100 ）		（ 100 ）		（ ）		（ ）			
			実 績			128.9		123.3							
		進捗状況説明		年度当初より、村内の主な店舗が登録店舗となり事業スタートが出来たことにより、村内全域での価格低減が図れたことで、実績指数123.3ポイントとなった。目標指数100の達成とはならなかったが、昨年度よりも目標に近づけることができた。											

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業の取組内容や効果について、購買者へ情報を発信し、周知を図る必要がある。	・村広報誌へのチラシの折り込み、村内各所でのポスター掲示、村ホームページ上に事業内容を掲載する等して、購買者への周知徹底を図る。
今後の取り組み方針		
村内へ本事業の周知を徹底するため、村情報誌へのチラシの折り込みや村ホームページ上での広報に取り組んでいく。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>3,132</td><td>3,132</td><td>2,506</td><td>626</td><td>0</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 3,132千円</div><div>負担金補助及び 交付金 3,132千円</div><div>(株)北部港運 3,132千円</div><div>日用品輸送費等補助 年度内支払額：3,132,586円 村単独291,410円</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,132	3,132	2,506	626	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,132	3,132	2,506	626	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定先については村の入口である港において輸送業を営んでいる企業は1社のみで適正であった。 ○予算規模は適正規模であったが、事業の性質上報償費及び旅費等に関しては参加者への支給が原則であるため予測できない減額があった。 ○費目・使途は事業目的に即し、必要なものに限定されていた。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		伊平屋村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		4-⑪		障がい者自立支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－イ		
担当部課名		住民課		事業実施 （予定）年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－9	
事業内容		障がい者自立支援施設開設に向け、障がい者支援サービスの検討並びに就労支援に向けた環境づくりを行ないながら、障がい者活動団体への支援を行う。							
効果発現年度		■当年度 □後年度（ 年度）							
実施方法		□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）							
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
		予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,000	—	6,320	664	796	
			(b) 予算現額	1,475	—	5,548	11,463	657	
			(c) 増減額 (b-a)	▲ 525	#VALUE!	▲ 772	10,799	▲ 139	
			(d) 繰越額	0		0	0	0	
			A. 計 (b+d)	1,475	#VALUE!	5,548	11,463	657	
		B. 執行済額	1,475		5,548	11,463	364		
		うち交付金充当額	1,180		4,439	9,170	291		
		次年度繰越額	0		0	0	0		
		執行率（％）(B/A)	100.0%	#VALUE!	100.0%	100.0%	55.4%		
予算の状況の説明	事業変更に伴い、管理責任者の配置回数を見直したことで139千円を補正減額した。								
活動目標 （指標） 及び達成状況		H29活動目標（指標）		達成状況					
				28年度	29年度	30年度	31年度		
		・障がい者能力調査及び支援プログラムの 策定 管理責任者配置1名	目 標	(1名配置)	(1名配置)	()	()		
			実 績	1名配置	1名配置				
			目 標	()	()	()	()		
			実 績						
達成 状況 説明	障がい者就労力の調査、支援プログラムの策定を行い、就労支援施設開設に向けて障害者活動団体に支援員を1名配置することが出来た。								
成果目標 （指標） 及び進捗状況		H29成果目標（指標）			基準値 （ 年度）	28年度	29年度	30年度	目標値 （ 年度）
		・障がい者能力調査及び支援プログラム策 定完了 管理責任者 1名	目 標	()	(1名配置)	(1名配置)	()	()	
			実 績		1名配置	障害者能力調査 支援プログラム策定			
		【H30成果目標】 家族へのアンケートで、支援内容について 充実していると感じたか(80%以上)を含 め、当該事業のあり方について検証する。	目 標	()	()	()	()	(80%)	
		進 捗 状 況 説 明	障がい者活動団体に支援員を1名配置し、月4回の支援活動を通して、障がい者就労力の調査、支援プログラムの策定を行った。 ※当初活動目標、成果目標が同じであったため、成果目標の実績を見直した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・策定した就労支援プログラムを活用し、障害者の個々の実情に即した支援プログラムを展開する	・障がい者団体活動支援を通して、障がい者個々の就労能力の把握、就労支援プログラムの策定ができた。今後は、就労支援プログラムを実施し、積極的に社会参加を促進する。 施設整備後の利活用を見据え、広域的な連携強化と各関係機関との情報を共有化を行う。
今後の取り組み方針		
・社会参画に向け段階的に就労活動のサポートを保健師と連携しながら行い、一定期間適性を見定め、障害者就労に積極的に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>364</td><td>364</td><td>291</td><td>73</td><td>0</td></tr></table> <div><div>伊平屋村 364千円</div><div>委託料 364千円</div><div>伊平屋村社会福祉協議会 364千円</div><div>（サービス管理者の委託（人材派遣））</div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	364	364	291	73	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
364	364	291	73	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」に基づきサービス管理責任者を有する団体に随意契約を行っており選定方法は妥当である。 ○予算については、3～4回/月程度実施となっているため適正と判断した。 ○業務委託料として措置されているため、適正と判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村							
平成２９年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5－①	伊平屋島災害時避難施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－(イ)				
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成26～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ－10－(2)			
事業内容	地震や津波、台風などの自然災害に強いむらづくりを推進するため、災害時に住民・観光客等が避難する避難指定場所のライフライン等の機能強化により、避難者が安全に安心して避難できる施設の整備を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋ 「市町村負担」 ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	27,944	0	4,875	18,000	18,000	
		(b) 予算現額	27,944	0	4,875	24,434	25,000	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	6,434	7,000	
		(d) 繰越額	0	25,300	0	0	0	
		A. 計(b+d)	27,944	25,300	4,875	24,434	25,000	
	B. 執行済額		2,656	25,290	4,590	24,433	24,732	
	うち交付金充当額		2,124	20,232	3,672	19,546	19,785	
	次年度繰越額		25,300	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		9.5%	100.0%	94.2%	100.0%	98.9%	
予算の状況の説明		当初予定していなかった電気改修工事が新たに必要になったこと及び単価の入れ替え等が生じたことから、工事請負費を補正にて7,000千円増加した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	村内各避難施設の空調整備工事実施 (2箇所)	目 標	()	()	()	(実施)		
		実 績				実施完了		
	【参考指標】 村内各避難施設の非常用発電施設工事実施 (4箇所)	目 標	()	()	(実施)	()		
		実 績			実施完了			
達成 状況 説明	平成29年度に実施設計、工事管理、整備工事を実施した。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (30年度)
	村内各避難施設の空調整備工事実施完了 (2箇所)	目 標	()	()	()	(実施完了)	()	
		実 績				実施完了		
	【参考指標】 村内各避難施設の非常用発電施設工事実施 (4箇所)	目 標	()	()	(実施完了)	()	()	
		実 績			実施完了			
	【H30成果目標】 整備された避難施設を活用した避難訓練 の実施を1回/年以上、実施することにより、 本事業のあり方について検証する。		目 標	(-)	(-)	(-)	(-)	(1回)
進 捗 状 況 説 明	村内の各避難施設については、平成27年度に暴風戸整備、平成28年度に発電設備、平成29年度に空調整備工事が完了した。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<div>・災害時に活用できるよう、当該施設が整備されたことを周知する必要がある。</div> <div>・設置箇所二地区の区長がテスト運転を実施しているものの、災害時の利用や停電時、発電機の切り替え等は各集落区長のみで行う流れとなっているため、区長不在の場合切り替え操作の方法が区民には分からない。</div>	<div>・広報誌や防災無線等を活用し、当該施設についての情報を発信し、災害時に活用できるよう取組む。</div> <div>・平成30年度以降区長以外でも操作できるよう機器講習会実施する必要がある。</div>
今後の取り組み方針		
<div>・防災無線、区長会を活用し、当該施設が整備されたことを伝え、災害時に安心して避難できる施設として、認知してもらう。</div> <div>・各集落で機器操作方法の講習会を実施し、災害時に対応できるような体制作りを行う。</div>		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<div><table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>24,732</td><td>24,732</td><td>19,785</td><td>4,947</td><td>0</td></tr></table><div><div>伊平屋村 24, 732千円</div><div>工事費 24, 732千円</div><div>有限会社 大進工業 24, 732千円</div><div>空調設備工事</div></div></div>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,732	24,732	19,785	4,947	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,732	24,732	19,785	4,947	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算については当初額より増額したが、適正であったと考える。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。										